

精神看護技術論

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・岡田実

科目担当者（職位・氏名）：講師・黒木雅美

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：80

■ 授業概要

精神看護援助論をふまえてメンタルヘルスの変調に直面している対象とその家族に対するアセスメント技術、援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学習する。シミュレーション演習として、精神看護技術についての学生同士のロールプレイ、教員及び模擬患者とのロールプレイなどを行い、スキルアップを図る。

■ 到達目標

1. 精神に障害を抱える人々への対人援助技術を理解し活用できる。
2. 精神に障害を抱える人々の治療やリハビリにおける看護や支援方法を考える事ができる。
3. 精神に障害を抱える人々の願いや回復段階に応じた看護過程を展開できる。
4. 精神科臨床における専門多職種によるカンファレンスの意義を理解し、実践できる。
5. 自律的に演習や課題に取り組むことができる。

■ 教育内容

精神看護学

■ キーワード

対象とその家族のアセスメント、対人援助の方法、回復段階に応じた治療と看護の理解

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1 2	精神看護学実習におけるアセスメント① (事例紹介)	患者概要・生育歴・生活歴・既往歴・現 病歴・三側面(Bio-Psycho-Social)	共同
3 4	精神看護学実習におけるアセスメント② (事例紹介)	セルフケア・生活項目(栄養・水分・排 泄/休息・睡眠・活動・運動/清潔・整 容・環境整備/対人行動/健康管理・服 薬管理/金銭管理/安全保持)	共同
5	精神科作業療法の目的と方法	治療としての作業療法(OT)	学外 講師
6	プロセスレコードの作成	「場面の設定」と「やり取り」の意味に 関する考察	共同
7 8	レクリエーションの企画書作成	レク療法における看護の役割と支援	共同
9 10	看護過程の展開① 統合失調症の看護	事例：情報整理・アセスメント ミーティング	共同
11 12	看護過程の展開② 統合失調症の看護	事例：アセスメント ミーティング	共同
13 14	看護過程の展開③ 統合失調症の看護	事例：アセスメント・具体策立案 ミーティング	共同
15	まとめ	事例：具体策修正・提出	共同

■ 履修条件

精神看護学概論、精神看護援助論を履修していること。

■ 成績評価方法

最終日に提出されたアセスメント用紙を記載領域毎に評価し 100 点満点に換算する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

課題は、次回講義での解説、あるいは資料を添付する。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
精神看護学 ① 情緒発達と精神看護の基本
精神看護学 ② 精神障害と看護の実践

■ 参考書・参考資料等

- ・阿保順子、岡田実、東修、那須典政著（2021）『統合失調症急性期看護学－患者理解の方法と理論にもとづく実践』すぴか書房
- ・岡田実（2008）『暴力と攻撃への対処 精神科看護の経験と実践知』すぴか書房
- ・ジュディス M. シュルツ、シェイラ L. ヴィデベック著、田崎博一、阿保順子、作間えりか監訳（2007）『看護診断にもとづく精神看護ケアプラン 第2版』医学書院

適宜資料を配布する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・講義時間内にアセスメント書式の領域各所に情報を記入し、アセスメントを完成させる。
- ・精神疾患の治療法や薬物の効能などについて関連図書を参照しながら、理解を深める。

■ 担当教員からのメッセージ

概論および援助論の知識を応用し、精神看護の実践力を養います。自律的に取り組み、精神看護学実習に備えた有意義な学修にしましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

岡田：研究室 18、mokada★iwate-uhms.ac.jp

黒木：研究室 6、kuroki★iwate-uhms.ac.jp

オフィスアワーは設けませんが、事前にメール等で教員の予定を確認して下さい。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

臨床や教育での経験を活かし、実践的な講義および演習を行っています。